

令和元年度第3回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和元年12月18日(水)
午後2時5分から午後4時35分まで
宮崎県庁4号館4階委員会室

○ 協議1 (Aグループ)

協議題 「就学前における地域の子育てについてどのような取組がなされるとよいか。」

- | | |
|-----|---|
| 事務局 | 研修について意見を伺いたい。 |
| 委員 | いろんな場や機会をとらえて研修をしていくしかないのではないかと。幼稚園や保育園の参観日は保護者の参加者も多い。そういった場を生かしていくことが大切である。研修内容も親のニーズに合ったものにする必要がある。 |
| 委員 | 子どもの叱り方や偏食の治し方、子ども同士のトラブルの対処法などが考えられる。小さなことで悩んでいる保護者も多いと思う。何かの「ついでに」受けられる研修だとありがたい。 |
| 委員 | 〇〇市の事例を挙げると検診の際に「ブックスタート事業」を行い、本をプレゼントしている。そういった場を活用することが考えられる。 |
| 委員 | 公民館でも保護者を対象にした読み聞かせ講座を行っている。参加できない保護者は小さいお子さんがいるため参加できないという声を聞く。予算を伴うことになるが、託児所を準備するなどの配慮も必要である。 |
| 委員 | 〇〇市内の公民館では託児付きの離乳食講座や子育て講座をやっている。保護者がオープンに参加できる講座になっている。〇〇ではまちづくり協議会と公民館が連携して、講座開講時に子どもたちを預かる事例がある。 |
| 委員 | 〇〇市の事例としては、年間10回行われる「すくすく子育て講座」は託児付きの講座になっている。
参加しやすいようにできるだけ近くで開催することも大切である。公民館はよく使われていて、空きがないという話も聞いている。 |
| 委員 | おじいちゃん、おばあちゃん世代向けの「孫育て講座」を行っている。県内に孫がいらっしやらない方もいるが、地域の子どもの子育て講座のようなものがあってもいいのではないかと。 |
| 委員 | 50代で孫がいる方は体力・気力もある。昔と今では、いろんな部分で変わってきている。 |
| 委員 | 異世代交流をしている地域もある。 |
| 事務局 | 相談・支援について意見を伺いたい。 |
| 委員 | 地域に民生委員・児童委員がいるが、定期的な訪問をするなどの活動をしているのかが分からない。引きこもりがちな親に対しては、話を聞くことが大切である。定期的に一人で悩みを抱えている親を訪問しているのか。 |
| 委員 | 民生委員・児童委員の方とはお会いする機会がない。そういった方を活用することは大切である。 |
| 委員 | 民生委員・児童委員のなり手がいないという話も聞く。親は悩みを話せる相 |

委員	<p>手がほしい。悩んでいるのは自分だけではなかったと知ることによって救われる。同じ境遇の親同士が話せる場があるとよい。</p> <p>子育てに関してはいろんな支援団体がある。「子育てサポーター」という名称であればイメージしやすいが、民生委員となるとなかなか馴染みがないところもある。また、その中で民生委員がどう活躍するかが大切である。子育て支援のいろんな関係者が集まって協議しながら役割分担することが大切である。長野県の産後うつ予防「須坂モデル」の取組では、いろんな支援団体や医師、保健師、助産師等の他職種間連携により妊産婦をケアしており、成果を出していた。本県でも子育て支援を行ういろんな支援団体が、それぞれにバラバラに動くのではなく、横のつながりを作り、協力し、系統立てた支援ができないだろうか。</p> <p>その有機的な取組の中で、民生委員の役割を明確にすることが大切ではないか。支援を行うチームは、地区などのある程度小さなまとまりが望ましいと思う。</p>
事務局	<p>地域でチームをつくって、いろんな方が連携して、研修や相談、人間関係づくりができるとよい。</p>

○ 協議2 (Aグループ)

協議題 「家庭教育支援としてどのような取組がなされるとよいか。」

事務局	<p>「家庭教育支援サポート・プログラム」（以下「サポ・プロ」と略す）についての広報・周知、活用方法について意見を伺いたい。</p>
委員	<p>学校に広めることを考えるのであれば、校長への周知に力を入れ、理解を得ることが大切である。校長を通じて一人一人の先生まで周知を図る必要がある。</p>
委員	<p>自分自身もトレーナーになるまではサポ・プロについて知らなかった。実際にサポ・プロを受講してみると、研修を通して様々な気付きがある。</p>
委員	<p>サポ・プロを自分の学校で行うと保護者同士が顔見知りであるため、本音と言えない部分もあるのではないかと。シャッフルして普段あまり面識がない保護者同士が本音を言えるような研修、ディスカッションの場があってもよいと思う。</p>
事務局	<p>家庭教育学級も一部の保護者の参加者だけが参加している現状がある。どう広げていくかを考える必要がある。</p>
委員	<p>研修に来てほしい保護者に来てもらえない現状がある。広報・周知、サポ・プロの活用について意見をいただきたい。</p>
委員	<p>来てほしい方が来られない理由は、仕事が忙しくて職場に行く、子育てが忙しくて離れられないことである。</p>
委員	<p>家庭教育学級は昼間に行われることが多い。仕事・育児がある人はなかなか参加できない。</p>
委員	<p>〇〇小学校では幼稚園と連携し、保護者が学校行事に参加している間、幼稚園で下の子どもを預かってもらうといった取組事例もある。家庭教育学級などの研修の間、託児所を設けるといった配慮も必要である。また、必ず保護者が</p>

参加する機会を捉えて、家庭教育学級などの研修を企画するとよい。例えば個人面談であれば保護者が必ず参加するので、空き時間をうまく活用してサポ・プロを一度経験してもらうことが大切である。

他にもテーマや内容を工夫することで、親と子が一緒に参加できる内容にすることもよいのではないか。

委員 家庭教育研修があるから休ませてほしいと言えない風潮がある。企業、あるいは社会全体の家庭教育に対する理解を広げることが重要である。

委員 社会全体の子育てに関する理解が必要であり、子育てについて学べる機会を保障していくことが大切である。

委員 子育てに関する企業の理解促進を図る手立てが必要である。

委員 研修時の保護者向けの託児所については、県内の大学との連携協力も考えるとういのではないか。大学生にとっては、託児所は児童観察などの学びの場になる。そうすると双方にメリットがあり、WIN-WINのしくみをつくることになる。最近の学生は自分にメリットがないとボランティアとして動かない傾向も見られる。また、子育てが終わった親のネットワークをつくり、ボランティアとして活用する方法もある。

企業の理解促進を図る手立てとして、子育て支援に力を入れている優良企業の表彰をするとよいのではないか。企業のイメージアップにもつながる。

委員 人権教育に力を入れている企業は多い。家庭教育に力を入れる企業が出てくるとよい。

委員 優良企業等については、マスコミをうまく活用して、PRすることが大切である。新聞はテレビなどと異なり、掲載記事が保存でき活用できるので効果的である。

また、親育ちを支援する取組も必要である。子どもにどう接してよいか分からず、児童虐待やネグレクトの問題も出てきている。昔は、子育てについて教えてもらえる環境があったが、最近は育児書に縛られる親が多い。親育ちをサポートするためにも企業を取り込み、サポ・プロを有効活用するとよい。もちろん企業だけでなく、市や県の官公庁もやるべき。

委員 サポ・プロは、毎年1回は家庭教育学級等で実施すると明記できるとよい。管理職を動かすには、教育長への理解を得ることも大切である。

委員 各学校の管理職がいかに家庭や地域とつながることを大切にしているか。管理職の評価もそこを視点としてほしい。

○ 協議3 (Aグループ)

協議題 「県民の読書に対する意識を高めるとともに、読書活動推進の県民運動としていくためにどのような取組がなされるとよいか。」

事務局 読書活動推進に関する「啓発」について意見を伺いたい。

委員 まずは幼・保から、小中学校まで、子どもたちの読書活動推進に力を入れる必要がある。子どもたちの本を読む姿を見れば、親にも広がる。

- 委員 子どもたちが図書館に馴染ませるような手立てが必要である。例えば、図書館を使用する際のある程度のルールを教えた上で、1時間でもいいので図書館を自由に使わせる。図書館は「宝の山」である。図書館を使用することの楽しさ、心地よさ、わくわく感などをぜひ体験してもらいたいと思う。
- 委員 県では「日本一の読書県」を目指しているが、読書時間や読書への意識や関心は低いのか。ある国では、身近に本を読める場所を設け、いつでも自由に本を手にとることができる環境を整備しているため国民の読書への関心は極めて高い。そのような環境が読書への関心を高めていくのではないか。
- 委員 県でもまちなかに本が置けるスペースを設け、どこにいても好きなときに本が読める環境づくりが大切である。各地区に1カ所でもいいので、本を読める場所を設けるとよい。そのためには各自治体、自治会の理解や協力を得ることも大切である。やりたい、やりませんかという思いを自治会長に伝えていくことはどうか。
- 委員 図書館が市民のいらなくなった本を集めて、無料で本を手に入れることができる「図書館まつり」という取組事例もある。各自治体や自治会ごとにそのような取組ができるとよい。
- 事務局 「環境づくり」について意見を伺いたい。
- 委員 ○○市では自由に勉強したり、読書したりしてもよい場所等を紹介する「まなびスポット」一覧を作成している。住民への周知も大切である。
- 委員 「開かれた自治公民館」として地域住民がいつでも利用できるよう、施設を開放してほしい。しかし、現実問題として施設管理上、常時開放していることは難しいのが現状である。
- 委員 スーパーマーケットの一角に、買い物のついでに本を読めるスペースがあるとよい。集客にもなる。
- 委員 商店街でもそういったスペースがあるとよい。○○市の○○通りに学生が集まってイベントをすることがよく話題になっている。
- 委員 読書が大事なことは理解できるが、読書が何をもたらしているのか、大切なところが漠然としているように感じる。読書が大切だとイメージしやすいように分かりやすい表現でメッセージを打ち出すことが大切ではないか。県民に読書は大事だと思っていただかないと広がりや定着は見られない。
- 委員 どんな本を読んだらよいのか分からないというところもある。映画の原作が本であることが多いので、そこからつながりがもてないかと思う。
- 委員 読書離れが本当に進んでいるのか検証する必要がある。身近に本を読める環境をつくるのが大切である。
- 委員 本の感想を通して、住民の交流ができるよい。
- 委員 商店街の空き店舗などを活用する方法も考えられる。伝言板を活用して、店長におすすめの本を紹介してもらってはどうか。

令和元年度第3回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和元年12月18日(水)

午後2時5分から午後4時35分まで

宮崎県庁4号館4階委員会室

○ 協議1 (Bグループ)

協議題

未来を担う人材の育成や持続可能な地域社会の構築に向けて、地域と学校の連携・協働の体制づくりや多様な活動の充実に向けて、どのような取組が必要か。

事務局

地域と学校の連携をしていくためにどのような取組が必要かという点から御意見をいただきたい。

委員

〇〇市では地域と学校の連携について、学校に理解していただくことが前提として進められてきた。最近の働き方改革で学校と地域の向き合う時間は減ってきているため、ますます地域と学校の連携が必要になってくる。学校で自然との向き合い方を教えるならば、地域の力は欠かせない。〇〇市では地域づくり協議会が活発化してきて、学校との連携が強くなってきている。地域探訪や自然との向き合う活動を行っている。また青少年自然の家での活動を通して、子どもたちがたくましく成長していく姿を見てきている。これからは地域との結びつきは欠かせないと考えている。

悪質な労働については労働基準監督署へ罰金を払わなければならないことから、商工会議所は労働基準監督署から労働基準について指導するよう言われている。学校も同様であり、2020年3月には中小企業も罰則規定の対象となる。そのことも少年教育に影響を与えると考えている。

高校の朝の挨拶運動は、これまで学校、保護者、地域で行われていたが、働き方改革から、生徒独自の取組として行われるようになった。

事務局

地域と学校が連携協働する上で学校への負担が増えるという考え方をされることもあるが、実は体制が整えられれば、双方向でつながり、働き方改革につながると考えている。〇〇町の先生方はどのような捉え方をしているか。

委員

今、〇〇町自体はコミュニティ・スクールの基盤ができていない。個人的には、小学校と中学校の保護者の重なりを考慮し、小学校単位でなく中学校単位で組織をつくっていかないといけないと思っている。

委員

学校側は受け手側として関わり、地域づくり協議会が立てる一つ一つの企画、イベントにおいては地域づくり協議会の責任のもと進めるのがよい。

委員

総合的な学習の時間を教師に丸投げしても無理がある。子どもたちにとっては失敗で済まされない。予算化して地域の協力を得られる体制をつくって、学校の教師だけではできない学習を地域の見識者とともに作り上げていけば教師の負担は減っていく。地域を知るコーディネーターを中心に連携を深めていく必要がある。地域コミュニティが失われつつある今、地域コミュニティを補えるのは学校しかないので、義務教育の中で仕組みをつくってほしいと思う。

現在、自然学校に関わっているが、そのような事業を国の資格を取った人や

専門の資格を持った人が関わり、公立・公営の事業として進めるなど抜本的に教育の仕組みを変えないといけないと思う。

委員 コーディネーターの人材について、市町村の課長級で退職された方が携わってほしい。子どもたちが自由に社会との接点を結び付けつつ、自尊心・他尊心を育ていけるような活動を子ども会や学級役員の方に紹介していけるとよい。今はボランティアで行うことが多いが、今後そのようなことに補助金を使えるとよい。

委員 新しい学習指導要領の考え方は、「社会に開かれた教育課程」であり、いかに地域社会と連動させていくかということに視点が置かれている。地域社会は、学校の方向性をよく理解し、同じベクトルで進むことが望まれる。学校は、地域に関わってもらふ領域を提案しながら、地域と学校が円滑に協働していく「宮崎ならでは」をつくっていく必要がある。

事務局 ベクトルを同じ向きにすることは大切だと思う。昨年の社会教育委員会議で話し合われてきたプラットフォームの考え方にあったような、様々な立場の人が関わるところで関わっていくゆるやかなネットワークが大切だと考えている。個別で行っていることを見直すことで無駄が省けていくのではないかと考えている。

委員 地域学校協働活動では学校主導で集めている方と社会教育主導で集めている方がいて、バラバラ感があるので、〇〇町で子どもに関わる人として年に3～4回会議を開き、教師や保護者も加わり、議論を重ねるとよいと思う。都市部や農村部のオリジナルの取組を推進し、「宮崎ならでは」の事例として発信できるとよい。

委員 宮崎の自然のよさに気付かず、地元を離れている人が多いことは残念である。

委員 郷土（地域）のよさを子どもたちに伝えていく必要がある。ブランド総合研究所が実施した幸福度ランキングでは宮崎県は1位だったが、魅力度ランキングでは28位、愛着度ランキングでは16位とふるわなかった。これも一つの指標となる。地域のよさに目を向けさせる上でも、地域は、学習指導要領の目指す「地域に開かれた教育課程」という好機を逃がしてはいけない。

委員 この会議では、地域で子どもたちをどう育てるか、学校でどう育てるかを確認していく会議の在り方や地域の人材を活用したコーディネーターの在り方などありがたい意見が聞けた。昔の遊びや伝統芸能で地域の方にお世話になっているが、現在、存在する組織の価値を見直していかなければならない。学校側だけの呼びかけや働きかけだけでは一方的な依頼になってしまうのでよくない。

委員 派手な結果を求めるのではなく、地味な答えの積み重ねが大切である。無理なく、無駄なくやっていく。私は、子どもたちには失敗しても成功してもその過程を確認することが大切であることを伝えている。

委員 現在の子どもたちは、道徳における問題や日本人としてのよさの低下等が見られる。その課題を地域のいろいろな人たちが学校と一緒に子どもの成長を支えることができる仕組み作りや社会運動が実際に動いていくことが大事である。

委員	平日に動ける地域の人材は限られている。その人材をどう活用していくかを考えていく必要がある。
委員	そのような人たちが生業とする社会的な仕組みをつくれるとよい。
委員	コーディネーターについて行政はどのような概念をもっているのか教えてほしい。
事務局	学校と地域を結ぶ役割として学校支援地域本部が10年程前からできていた。そこでは地域や市町村の教育委員会がコーディネーター担ってきており、学校の要望を受けて、ボランティアとして教育支援を行ってきた。
委員	コーディネーターは、ボランティアでなく、一定の予算をつけて、価値ややる気、収入につなげていけるとよい。
委員	コーディネーターは、互いの紹介役でよい。互いに結びつく機会がないので、地域の人得意なことをネットに上げて紹介した経験がある。
事務局	これまで少年教育として地域と学校の連携について話を進めてきた。この地域学校協働活動が進められると、学校のためになり、子どものためにもなる。また地域づくりにつながり、関わる人たち同士のつながりもできる。さらに子どもの前で話をするために準備したり、改めて学んだりするなど関わる人の生涯学習につながっている。
委員	国立の青少年教育施設では、国が推進している施設での活動を各教科に位置づける取り組みを行っており、当施設でも研究をはじめた。この事例は何か参考になるのではないか。学校が、人材も含め地域の生きた教材の活用を図っている中、施設側も自己満足に終わることなく、学校側の理解を得ながら、実効性のあるものを提案していきたい。

○ 協議2 (Bグループ)

協議題

社会教育関係団体の人材確保や団の活性化につなげるためどのような取組が必要か。

事務局	青年・成人については、人材集めに関する周知広報や人材育成に関する意見が多く見られた。そのようなことも含め、意見をいただきたい。
委員	〇〇市は、青年・成人教育において行き着くところは、リーダー育成がある。地域の祭りを軸にリーダーが育成されている。祭りの班のトップになることがステータスになりつつある。商工会議所等が地域のリーダーを育てるために行うイベントよりも、地域の祭りの方に携わる人たちは生き生きとしている。この先、地域についての気付きを得てほしい。
委員	やらなければならない、義務として取り組まなければならないイベントと、自主的に取り組むイベントがある。祭りは自主的なイベントの要素が強い。〇〇町はどちらかというと義務的なイベントが多い。消防団も若い人しかできないことから義務的である。青年団と同義の青年部も同様で義務的である。〇〇町の既存の青年部は今、活動をしていない。ただ、公民館単位には義務的な活動をしないため、組織は存在する。自主的な青年会では、多くの人数で、祭りを盛り上げる活動をしている。どちらの組織も大切にしないと

いけない。

委員 自分の息子が大学進学のため〇〇に住み、祭りに関わっている。祭りを通じて地域と密着している。特に大学では地域との連携を大事にしており、それが地域に根付くきっかけになっている。商工会議所では地域活性化、特に商工会活性化に向けたリーダーを育成している。これは義務的であるが、関わる人に納得してもらった上で、取組を進めている。

委員 無理に、負担になるようなイベントはする必要がないと思う。子どものためにという思いが重なってくるとよい活動になってくる。熊本災害時に、日常の訓練を受けた義務的な組織が活躍していた。消防団は地域のことを熟知しているため、自衛隊とともに救命の活動を行っていた。建設業組合がトラック運搬や土嚢やブルーシート等の資材を隣県の被災地のために提供し、支援を行っていた。このような活動は予算を充てたりして、続けていかなければならない。女性においても、婦人会組織が減少の傾向である。〇〇地区には組織づくりの見本になる女性組織がある。組織を一人で立ち上げるのではなく、5人くらいの女性が中心となり、会長や会則を設けずに立ち上げた。今では、5人をもとにラインでつながりを広めて、80人くらいの組織になり、ニーズに応じて参加できる人が集うような緩やかなネットワークで活動を進めている。

委員 極端に言うと、任意の会であるなら、スポーツ少年団等の団体の長をたてずに、窓口になる人を立てたら複数名で運営してもよいと思う。任意の会をトップダウンの体制で進めても難しい。旗振り役となり、ボトムアップで意見等を取り上げていくことが大切である。一方では、先輩がいるため後輩が入りにくい、活動しにくい組織体制をつくっているということもある。

委員 消防団は年齢に達したら加入し、ある年齢になると出て行く仕組みになっている。集まったときのメンバーで継続していき、下の者が入らず空洞化してしまうこともある。

委員 小さな町ではいくつも役を兼ねている。地域で頑張っている活動している年齢層は70～80歳代で、新たに加わろうとはしない。

委員 今の青年は組織に縛られることを好まず、生活様式の変化から地域に根ざすことが少なく、青年団体活動の衰退が見られる。しかし、残っている人たちは懸命に活動している。昔はSAP（農業青年の学修グループ）もあった。どう発信して魅力を伝えるかが大切であり、仕掛ける人の存在が重要である。

委員 災害時に婦人会のない集落は、なかなか情報のやりとりができず大変であったが、組織がしっかりしている集落は情報伝達がやりやすかった。そのことを婦人会の人に話したら、自分のことのように動いてくれ、組織がつくられていった。

委員 フェイス to フェイスの付き合いは命を守ることにもつながる。地域に住んでいる以上は地域の一員として意識づけることが命を守る上でも大切である。過去、青年対象事業に関わったが、団体行動が苦手な若者も、事業を通して感動し、自信を身につける姿も見られた。日本の青少年の自己肯定感の低さが指摘されているが、少年教育の段階でどう対応していくかが課題になっている。やりがいをもたせ、自尊心を高め、居場所をつくっていくことが大切である。

ボランティア活動は意図的・組織的につくられるものが多いが、活動や多様な人との出会いを通して、ボランティアの心が芽生え、生きがいを感じるこ

ができる。どう仕掛けていくかを考えていく必要がある。

委員 このことは全国的に課題となっていることであるため、参考事例や好事例があれば、例を多く見せることできっかけづくりに役立てられる。人にどう届けられるかが社会教育委員の務めだと考えている。

委員 人の居場所と言えば、自宅や会社、子どもについては学校、以前ならば、祭りであったり、会合であったりしたのだが、現在の子どもたちにとってのもう一つの居場所はスマホである。ハローワークの方と話した時に、以前の方は給与を見ていたが、今の若者は年間休日の数を気にしている。一定の休日数より少なければブラック企業扱いをしている。つまりスマホと向き合う時間を欲しがり、スマホ＝自分としている。その現実に関心があるが、家庭で約束を設けてしつけるべきである。

委員 ○○の女子会ではラインを駆使し、様々な情報を共有し、物事の解決を図っている。そのような組織の在り方も参考になる。

委員 若者をネットから引き離すことはできない。ネットとどうつきあっていくかを考えていかなければならない。今、引きこもりが問題になっているが、自己肯定感のなさから、このような問題が引き起こされている。

委員 若者の間では「いいね」ボタンで自己肯定感につながっていると聞いたが、理解しがたい。一方、○○の女子会の取組は素晴らしく、参考になる。

委員 自分たちでつながるために、自発的にスマホをツールに選んでいる○○の取組には感心する。

委員 この組織は強制されて活動するものではない。現在、新しい取組として、木綿栽培をして、綿を紡ぎ、機織りまで行うワークショップを毎月1回開催している。これは自然学校が県の予算をもらって実施しており、今後、廃校跡の○○中学校でコミュニティカフェとして運営する予定である。立ち上げるまでは大変であるが、立ち上がれば継続していっている。40～60代の女性が多く関わるなど、空洞化している年代の人たちが中心となって取り組む組織である。

委員 ○○学校の高等部生徒は関わってくるか？

委員 総務省の研究事業である「関係人口創出・拡大事業」を自然学校が事務局として受けている。○○学校の○○学習の時間で地域課題を見付け、課題解決していく授業として行っているが、学校だけでなく地域が関わり学びを支援している。

委員 青少年自然の家でも事業ごとに高校生ボランティアの募集を行っているが、応募が増えている現状である。これは全県的な傾向でもあり、学校側の勧めもあり、高校生のボランティア参加の活性化が見られる。この生徒たちが大学卒業後に地域にもどり、地域とつながっていくことに大変期待が持てる。

委員 ○○学校には自主的に立ち上がったボランティア部がある。耕作放棄された茶畑を焼き畑にしてそば畑をつくる活動で、収穫後、そば打ちをして食べる企画に対して10名の参加があった。この耕作放棄地を有効活用する課題研究が評価され、○○大学に進学した生徒もいる。そのような生徒はボランティアの楽しさや必要性も分かっているため、心の育成も図られている。この取組は、

	学校と社会とが進めてきた運動が成功した事例といえる。企業や大学、高等学校が求めてきたものである。
事務局	これまでの意見の中には、参考事例収集の必要性や組織の在り方、若いうちの様々な経験が後々に生きてくるという取組があった。
委員	ボランティアを入試のために取り組んだという生徒は、後々ボランティアの意義を理解し、希望大学に進学をしている。
委員	〇〇大学には高校でボランティアに取り組んだ生徒が進学してきている。大学側は〇〇学部をはじめ、いかに地域に根ざしていくかを考え、そこに予算をかけている。そういった機関との連携が大切である。
委員	一般の人よりも大学生は長い期間ボランティアに携われる可能性の高い人材である。全国から大学生が集まり、派遣することができた。〇〇大学の中にはボランティアセンターができており、登録をすれば、ボランティア保険にかけたり、旅費支給をしたりするシステムが整っている。大学生としても災害教育を現場で学べる。全国もそれを見習い、ボランティアセンターを設置して、体制づくりを進めてほしい。
委員	行政は県内の青年団を細かく把握しているのか。
事務局	県の青年団の人数については把握しているが、細かい団体については理解していない。
委員	〇〇町では団体の存在は分かっている。しかし、それをまとめるようなことはしていない。行政の青年団同士の交流は活性化につながることを期待できる。継続した組織としてでなく、目的ごとに立ち上げる団体が変わってきているのではないか。
委員	過去に、〇〇団という名称が古いので変えた方がよいのではないかという論争があったと記憶している。名称の変更については声が上がってないのだろうか。

○ 協議3 (Bグループ)

協議題

県民の読書に対する意識を高めるとともに、読書活動推進の県民運動としていくためにどのような取組がなされるとよいか。

事務局	読書・図書館教育について各自の思いや意見を聞かせてほしい。
委員	子どもの読み聞かせを充実させてほしい。 親が借りられる本の充実を図ってほしい。子どもは気に入った本を繰り返し読んでもらうことを好むものなので、ただ増やせばよいというのは疑問が残るが……。勉強できるスペースになっていることは、中高生にとってありがたいことである。ショッピングセンターのイートインスペースで中高生が学習していた。その姿を見て、なぜ図書館に行かないのか疑問に思った。
委員	〇〇町は町の中心にしか図書館がないので、送迎しないと行くことができない。〇〇中学校が廃校になっているので、学習の場として開放してほしい。子どもたちは自分たちでいける範囲内に、図書館機能をもった学習の場を求めて

いる。

委員

学校としては読書や読み聞かせの充実に向けて地道に取り組を進めている。子どもたちが図書館の魅力を感じているが、自分たちで気軽に行けないという現実がある。地域に図書室を開放しているが子ども向けの本が多いため、地域の人の利用はほとんどない。

委員

電子図書の利用については、購入が必要である。また中高生の子どもで漫画を見ている子は多く見かける。書籍的なものを読む子どもはあまり見かけない。

委員

高齢者を対象にした移動販売に図書を持っていくと借りられている。高齢者も本を求めていることが分かった。福祉と高齢者教育の連携を図ることができると考える。自然体験を行う森のようちえんで、自然体験と読書活動を融合したデンマーク発祥の読み聞かせを行っている。大きめの本を使い、戸外で読み聞かせをしている。季節に応じた内容を選び、自然の中で読むことで五感を刺激し、感動につながっている。雨が降ったら、軒下で傘を差しながら、雨の題材やかえるが出てくる絵本を読み聞かせしている。教師も野外活動と読書活動を組み合わせ、意図的・計画的に取り組めると効果が期待できると思う。

令和元年度第3回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和元年12月18日(水)

午後2時5分から午後4時35分まで

宮崎県庁4号館4階委員会室

○ 協議1 (Cグループ)

協議題

利用者(高齢者)の方々の関心を高め、より充実した事業とするために、どのような取組がなされるとよいか。

- | | |
|-----|--|
| 事務局 | 御意見の多かった「生きがづくり」というところから御意見をいただきたい。 |
| 委員 | 生涯学習・社会教育の学習主体として、それぞれの学びが主体的になされているのか。支援というよりも主体的に学ぶことを支える「生きがづくり」という観点で、高齢者の学びをどうつくっていくのか。「生きがい」というと高齢者が余生を楽しく暮らすプラスアルファのイメージがある。その年代ごとに学びの意義があって、そこから学びを組み立てていく、こちらから提案するよりも自ら企画・立案していくことが大切だと思う。今直面している課題や問題は、経験豊かな方々の力が大変重要であるので、公民館で楽しんで過ごしてくださいというよりも社会をつくる一員として力を発揮してくださいというスタンスの方がいいと思っている。 |
| 委員 | 生きがいというよりは、「生き生きと高齢者がどう生活するのがよいか」ということを考えている。現在、〇〇市では「こけない体操」をやっているが、たくさんの方が参加している。学習の場を設定するというよりも、この体操の後に、みんなで学習するという流れの方がよいのではないかと考えている。家に閉じこもるのではなく、外に出て、そういったものに参加してもらうことが自治公民館にとっては大切なことだと考えている。 |
| 事務局 | 市町村に調査をしたとき、高齢者教育や公民館講座は「生きがづくり」に視点をもってきている市町村が圧倒的に多い。地域社会への参画をねらいとしているところは意外と少ない。今の話のように、外に出て行くという観点で、サロンのような場所やスキルについてどう考えられているか、その辺りについてはどうであるか。 |
| 委員 | 放送大学とかで自ら進んで学習している人は、どうやって学べば良いかを知っている人が多い。逆にそうでない人も多くて、そういった人が自分に合った情報を身に付けるためのスキル、ネット等を毛嫌いするのではなく、そこから自分に合った情報を獲得する力をできるだけ身に付けてもらったほうがよいのではないかと考えている。
ネットにメニューはたくさんあって、例えばボランティア活動がしたいと思ったときに、どうすればよいか分からないことも、スキルがあれば能動的にすることができる。また、活動を行うことで、つながりがでてくるのもあるので |

はないか。人との関係ができてつながりができると、また新しいつながりもできてくるのではないか。

委員

生涯学習講座が行われているが、講座はほとんどが自己利益で終わっている。行政もそこまで求めない事業ばかりしている。今、仲間づくりとか地域づくりとか言われているが、そこにいけないのは、生涯学習が原因になっているのではないかという厳しい意見もある。学んだことを地域に貢献しようとするのがない、それが分断を招いたという意見もある。

事務局

公民館活動を積極的にされていると思うが、高齢者の方々が地域づくり等への参加の状況はどうであるか。また、情報と言ったときに自分が参画できる場の情報をどのような形で流されているのか。

委員

元気な方も多く、小学校の花壇に花を植えたり、稲刈りの加勢をしたり、いろんな協力をしているのでつながりはある。先日開催された県の実践研究交流会でコーディネーターのことがあったが、公民館にもそういう人がいればいいと思った。今は、それぞれの団体が活動するのを公民館がバックアップするような形である。

事務局

県の学びネットというHPがあり、それにネットコミュニティーの機能はない。そういうのがあると面白いと思う。

委員

与えられた役割というよりは、本人が自らやりたいという意味での役割はとっても大事だと思っている。はじめにも話題になったが、県内の高齢者教育が地域づくりに展開されていないというところは、企画する側も地域づくりに直結するものばかりを企画すると重たくなってしまうということも感じている。私自身は、楽しい行事でも、趣味でも、入り口はどこでもいいと思っている。そこでいろいろな人と集う中で地域づくりに道をつなげておくことが大切だと思う。「地域参加の学びの階段」というような、上がれる人は上がっていくような階段をつないでおく。つながっていなければ単なる趣味の講座で終わってしまうので、つながっていけるような公民館の講座の作り方が必要で、次の展開につなぐことが重要になる。

アクセスについては、アンテナの高い、低いによって学習格差が広がっている。ITで大事なものはスピードで、公民館の活動の写真等を載せて日々更新する。その日その日に公民館はどんなことをやっているのかなど、その日あった公民館での学びを見せていく方法を考えていく。また、ついていけない人へも考えないといけない。例えば高齢者にとってはロコミを保障して地域のリーダーが伝える。結局、人も大事。社会教育士は今後、いろんな人が受ければ名乗ることができるようになる。どんどん受けてもらってこの公民館にはこの方が学びの専門家としていますよ、といった人の情報も出していくことが大事だと思う。

つまり、アクセスできることも大事、一方で生身の直接のアクセス、両方があるのではないかと考えている。

事務局

これからは、もっと時代や世代に応じた講座が必要になるのかもしれない。

委員

講座とは離れるかもしれないが、テニスをするときに、例えば、施設予約システムがある。公民館のコートは地元の人が優先だとか、価格が安いとかある

が、手続きが面倒なところもある。予約できる期日も地元以外の方は1週間先までとこだが、地元の方は1か月先まで予約できるというところがある。それだけ、地元の方は恩恵を受けている。だから、公民館で、この講座があるので手伝ってと言えば手伝ってくれるのではないか、それあつての地域優先ではないか。人の心は優遇されれば何かしなければと考える。そういう趣味とかの活動が有機的に結びついて、趣味のことと地域貢献をセットにして、そういったことが自然とできるような、互いにWIN-WINが構築できるといいと思っている。

○ 協議2 (Cグループ)

協議題

生きがいつくりや地域づくりにつなげていくために、公民館にはどのような取組が必要か。

委員	公民館の役割がよく分からない。施設の貸し出し等について教えてほしい。
委員	私の所は地域の活性化のために公民館として活動を行っている。また、〇〇地区は12の自治公民館があり、その中に公立の公民館がある。その中で、地区の体育館とか、小学校の体育館とか調整をして貸出しをしている。
事務局	よく混同されがちなのが自治公民館と公立公民館の役割というところである。〇〇館長は自治公民館の館長で、自治公民館は地域のためという色が強い。
委員	地域のために活動を行っているが、人によっては何もしない方が楽なんじゃないかという人もいる。
委員	宮崎は他県と比べて自治公民館が強く残っている。全国的に自治公民館が再評価されている。自治公民館の活動は宮崎の宝だと思う。県民が改めて自治公民館の意義を知って、残すようにしていかないと、この先、消えていくことも考えられる。
事務局	宮崎の自治公民館活動は活発で、特に中央部から離れて行くにつれて活動が活発に行われているように感じている。そこの方々は何かをするときによく公民館に集まってくる。何かをしようと思っている人たちが集まってくるので、そこに主体性が生まれていて自分たちで考えて活動を行っている。主体性や自分たちの活動が人のために役立っているという実感を得られるような流れがつかれるといいと思う。〇〇館長のところは、企業などや様々な団体との横のつながりもあつて参考になる。
委員	公立(条例)公民館と自治公民館を整理して考えないといけない。両方が混ざった状態で語ると、それぞれの良さが消えてしまうので、そこを整理して「宮崎ならではの」公民館の充実というところを打ち出せばいいのではないかと思う。
事務局	島根や鳥取のように公立公民館がしっかりとっていて、それを自治公民館が一緒になって活動している。公立の公民館には公民館主事がいて、地域の人から情報を得ている。残念ながら宮崎の公立公民館には公民館主事の配置がない。その辺りが課題でもあるが、逆に言うと自治公民館がしっかりとっている。
委員	〇〇町は公民館の活動が盛んで地区ごとに工夫をこらして活動をしている。全国大会に行つて「〇〇町です」と言うと「知っています」とよく言われ、公民館活動が評価されている。

事務局 加入率や新しいコミュニティをどうつくっていくかについて課題があったので、委員の意見を伺いたい。

委員 広報するのに、ネットとかスマホとかの話があったが、私の地区では私より年上の方はペーパーで配ることしかできない。600世帯くらいあるが加入率は70%くらい。それでも工夫しながらなんとかやっているの、40%くらいしかないところは大変だと思う。子ども育成会には入っても自治公民館には加入しないところ等もあって難しい。

事務局 地域によっては100%のところもあるが、そういう集まり等が嫌で入らない人もいる。でも何かあったときには必ずどこかよりどこを持っておかないといけない。新たなコミュニティの在り方というのは考えないといけないのかもしれない。

委員 防災で言うと、自助・公助・共助があるが、行政に助けてといっても無理があるから、地域でなんとかしないといけない。そういったことも考えると大事にしてほしい。

委員 子どもがいてもPTAに入らないところがあるというのを聞いてびっくりしたことがある。

委員 ○○町では学校で説得して、メリットとか伝えていろいろ難しいところもあるが、なんとか全員に入ってもらっている。

委員 ある子ども会の事例では、地域で話し合いをして、地区の予算から負担して会費を無料にしたら加入率100%になったところがある。このような参加率をあげる働きかけや、地域に参加して学びの一步を踏み出せない不参加層を掘り起こしたり、アプローチしたりする支援は、社会教育主事等の専門職にぜひ力を発揮してもらいたい。

委員 地域の子どもの地域で育てると言うが、育てる側の保護者が地域づくりに参加しないのは問題かなと思う。地域づくりには参加しないで、地域の子どもの地域で育てるのは納得できない気がする。

委員 そういった人には、人が分からない、地域が分からない、疎外感を感じているなど踏み出せない理由がある。子育ての不安もあるし、いろんなものからの疎外感をいかに開放して、人や地域に出会わせるかといった支援者の専門性が必要だと考える。

委員 能動的な人は自らできるが、そうでない人は、イベントに参加してもらい、それをきっかけにして、その時に子ども会に入っていない人にチラシを渡し、次こんなイベントがあると教えると子どもは喜んで参加する。子どもが喜ぶ姿が親は嬉しいから、子どもが喜ぶならと加入するような流れができるとうい。ただ、反応しない人もいるので正直難しいところだと思う。

委員 実際に役員をしたくないから入りたくないという人は多い。公民館には入るけど、班に入らない方が15件くらいあって、班は14班あるから、配布物等配るときに普段の倍まわらないといけない状況がある。

委員 全国的に上手くいっている例を集めて参考にすることはできないか。調査結果に書かれてあることはなんとなくは分かるが、具体的に動かすための工夫とか人集めでどんなやり方があるのかなどは分からない。

事務局 学びの一步を踏み出すという公民館事業としての工夫や新しく来られた方を

	引き込む工夫とかはどうか。
委員	〇〇町では区長制を廃止して公民館長制にしている。月に1回公民館長会があり、そこに町長や課長などが来て、町の方針などを説明する。チラシなどがあるときはそれを館長が町民に伝えていく。いろいろな行事を協力していかないといけないので、みんなが協力してやっている。
委員	この会議は自治公民館の町民の意見を吸い上げるためのシステムになっている。一般的にはトップダウン的な仕組みが多いが、〇〇町は下からのボトムアップ的なシステムができています。 公民館の学びをつくっていくのに大事なものはニーズマスターを見つけることである。困りごとのある人など日々の暮らしを豊かに生きるという基準で公民館の講座をつくっていくセンスが公民館主事などに求められる。先ほどテニスのつながりの話があったが、テニスのつながりはテーマコミュニティで、働き盛りの人たちはこういった趣味とかでつながることができる。暮らしの中ではエリアコミュニティでつながりを見つけていくが、入り口はどちらからでもいい。テーマコミュニティから入って人と交じることでエリアコミュニティに、逆に地域から入って行く中で興味を持ったサークルに入るなどできる。公民館は、ごちゃ混ぜのるつぼみたいなものだから、ここに意味があると思う。それをかき混ぜるのが社会教育士のような専門性をもっている人で、最終的に地域をつくる学びというところに到達すればいいのだと思う。学びを踏み出すためには常に専門職としての「誘う」専門性が欲しい。
事務局	連携ということで、学校など働き方改革で責任の分担化といわれているのだが、地域の子は地域で育てるといいながら、地域の方にそれができているかという疑問もある。学校としても地域にお願いしてもいいのかというところもあって難しいし、学校には入りにくいというところもまだある。学校は培ったものを発揮できる場になりえると思っているが、学校の方も理解が進んでいないという部分もある。
委員	地域学校協働活動の一環で、〇〇はげまし隊がある。中学2年の数学の授業に入るが、最初、校長は抵抗があって、職員がみんな理解しているわけではないし、職員も毎日が参観日のように協力を得ることが難しいこともあって活動の開始が遅れた。平成8年頃から学社融合があったが、未だにこういうことを言っているのかと思った。
委員	〇〇地区も昔、学社融合を一生懸命やっていた。今も〇〇地区祭り等をやっているが調整が難しくなっている。学社融合のことも含めて学校で引き継ぎをきちんとしてくれればもっとやりやすいと感じている。
委員	今、目指している地域に開かれた学校というのは、デューイのいう地域社会の中に学校が位置づけられている姿であり、地域社会と学校が常に行き来できるような姿を目指していかないといけないと考える。また、話し合いによる合意形成というのが重要で、今の子どもたちは学校で話し合いによってともに学ぶということを知っているのであれば、大人はもっと子ども以上に話し合いをしないといけない。
事務局	地域があって子どもたちがいるから学校がある。学校ありきではない。そこがうまくいっていないので、ぜひ宮崎で根付かせたい。コミュニティ・スクー

- ルと地域とを融合させていく、まさに合意形成があつてというところが根幹の部分になる。
- 委員 総合的な学習の時間等があるが、校外で活動するので先生の手が足りない。うまいところは、保護者等の協力を得て行っている。最初から学校に入れるのではなく必要などころから協力をもらうというところからでもいい。
- 委員 1つのとっかかりから展開するというアプローチの仕方、人が動くときは動機があつて、社会貢献、地域のためにという人もいれば、趣味のために、子育ての悩みに関わる人もいる。この場に來たからこんなことにもつながっていますということが分かれば広がっていくと思う。単体でやっていると見えない。
- 委員 人が学びに出会う上がり口は、あればあるほどいい。拠点が公民館であればそこで活動して、よりつながりが期待できる。
- 委員 公民館に足を運ばない人でもネットとか、お知らせとかもメールで定期的に送るだけでも疎外感はないのではないか。メールが来るだけでも一員として所属感を与えることができ、つながることができる。
- 委員 ○○はげまし隊は高齢の方が多く、お知らせは中学校のHPに、はげまし隊のバナーがあつて、そこをクリックすると時間割がでて自分の空いている時間を選んで学校に行けるようになっている。
- 委員 先生たちもそれに慣れて、そういうことが当たり前になってくるといい。

○ 協議3 (Cグループ)

協議題

県民の読書に対する意識を高めるとともに、読書活動推進の県民運動としていくためにどのような取組がなされるとよいか。

- 委員 ○○町は県内1位の貸出冊数で子どもの利用も多い。学校教育の先生が動機付けなど上手く図書を利用するように仕掛けているのではないかと思う。
- 委員 館長が新たな発想で取り組んでいる。図書館に來ない人をいかに呼び込むかという視点で取り組まれている。イベントのみで終わらずに本と結びつけたイベントをやっている。
- 事務局 ○○では公民館の一室に本が置いてあるが、なかなか利用者が増えなかった。そこで、移動図書館に目を付けて、移動マルシェという町立病院での物品販売と一緒に本の貸出しを始めたら飛躍的に貸出しが伸びた。本が手に取れる状況をどれだけつくれるかが大事だと感じた。○○市も調べ学習を図書館の本を使って調べるよう学校に声をかける等行っており、仕掛けというのは大切だと思う。
- 委員 過疎の地域に生活用品を移動販売するが、その時に本を置く等、いろんな発想があるといい。
- 事務局 スマホや電子書籍等はどうか。
- 委員 ある一定の年齢層は電子化されたものもいいかもしれない。しかし、乳児・幼児期はメディアの影響とか発達上の問題とかある。小中学生は活字で出会わせることがその後の学力や語感を使った学習とか電子化だけじゃ厳しいところ

- がある。
- 委員 本が身近な環境にあることは大事だし、今の子どもはその環境にない子が多いのではないか。
- 委員 本は電子化されたら個別の関係、ピンポイントで好きなものが読めるけれど人との関係は広がらない。本なら本を媒介にした人とのつながりができる。
- 事務局 大人のビブリオバトルというのを見たが、その方が子どもの頃家族それぞれの本棚があって、そのとき家族がどんな本を読んでいるか興味があったと言っていた。身近に本がある環境で育っていた。
- 委員 地区の公民館には本はあるけど、自治公民館には本は置いていない。
- 委員 自治公民館は住民から一番近い距離にある集いの場になり、この生活圏の中に図書室というものがあるといい。予算がなければ移動図書館を自治公民館に貸し出すか、公民館同士で本を回していくような仕組みがあってもいい。
- 委員 本屋などにある店員が薦める本でちょっとしたコメントがあると、興味をひく。
- 委員 専門家が書くよりは、近くの人が書くおすすめ等があってもいい。
- 事務局 ○○町の図書館は図書館の概念を崩すというか、とても面白い。
- 委員 公民館と図書館が一緒の所にあるといいのではないか。
- 委員 図書館は公民館より疎外感を持った人が行きやすい。新しく来たばかりの方は公民館で立ち話をしている輪は入りにくいことがある。図書館といえば、一人でいていいよという安心できる場所で入りやすいというメリットがある。本というテーマコミュニティから入って、次は横の公民館講座に行ってみようという流れ、そういう入り方もある。
- 委員 入り口は何でもいいというところでいうと、入りやすさがある。仲間がいるから入るといふこともあるし、一人でいいから入るといふこともある。
- 事務局 図書館の在り方自体も時代とともに変わっていくと思う。○○市は週に1回しゃべってもいい日を設定している。こういうこともこれからは大切になる。
- 委員 関わり方としてのチャンスはいくらでもある。
- 委員 電子書籍の話で、電子化をするなら年間で何冊読んだとか、どんなジャンルを読んでいるとか自分のデータベースがあると自分の励みや目標みたいなものになってモチベーションも上がりいいのではないか。個人情報の危うさがあるけれども。
- 委員 日本一の読書県を目指すなら市町村との連携はどうなっているのか。
- 事務局 3年間の一番の大きな成果は、図書の配送システムをかえたこと。市町村にない本を県立図書館からほぼ1日で送ることができるようになった。また、中山間の学校には年間500冊くらい県立図書館の本を送っている。このようなシステムができたのは大きい。
- 委員 公立はよいが民間の幼保園の本の循環があまり良くないと感じている。小さい頃に本に出会わせることは大切な時期なので、市町村レベルで幼保園にサービスとして提供できればいいと思っている。公立や民間で幼保園に格差ができるのなら投資してもいいのではないか。